磐城調査新報

發行日（毎月十日廿五日）
編輯兼發行人　福島縣平町紺屋町二九　馬目雅治
印刷所　福島縣平町紺屋町十四　加納活版所
發行所　福島縣平町紺屋町二九　磐城調査新報社　電話八四二
一部金十錢一ヶ月金廿錢　廣告料一行十字詰五十錢

釜屋商店
電話一三九番

時相警鐘

問題に問題を重ねたる平上水道擴張工事はいま正に着手されんとしてゐる。爾來水道工事に不正事件は付き物の如く全國に渉つて幾多醜き前例あるを知る。

平上水道擴張工事は豫算三十萬に垂々とする、平町としてこゝ十年間は夢想する事さい出來得ざる大工事である、從つて魔の手!!陰影!!が付き纏はぬことたれが斷言できよう。

町當局は各々戒心して赤誠工事に當れ!!!

町議諸君は立候補當時の意氣を顧みて熱烈なる愛町心を更に振ひ起し、工事に諸物購入に細心にして勇敢なる監督をなせ!!!

三萬町民諸君は更に其の脊後にあつて嚴重峻烈なる監視の目を光らせよ。而して些の不正にても發見せる時は苛責なく曝露せよ!!!

かくして水道擴張工事は初めて明るき完成をなすであらう

血迷ひたる哉
平理髪業幹部
冷靜に時流を刮目せよ

深刻な不景氣の爲め急速度に一般の物價は暴落し、勞働賃銀の下落してゐる昨今何の營業に不拘料金の値下げ斷行するのが時代に順應する適切な施設で、過般荒井署長が平町の各種營業組合員を集め値下げ强要なしたる事は頗る多としなければならない。署長の勸告に對し理髪業組合が他組合に率先して料金値下げを爲したまでは好かつたが値下協定値段を楯に、より以下の料金にて營業をなしつゝあつた平町四丁目小林床及び鐵道倶樂部嘱託宮川氏に對し同組合長の名を以つて協定料金實行を迫る除名通知をする、或は贊明なる荒井署長迄を動かして營業停止を爲さしめんと策動する如きは如何に少數幹部の頭が頑迷不逞なるかを裏書してゐるものではあるまいか。問題はそれに止まらず平町南町直龍軒が百枚の無料理髪券を貧困者に贈與せんとした事には反對する、宮川氏の徒弟が休日を利用し貧困小學兒童に同情して無料で理髪を爲さんとしたる事も中止せしめる等組合幹部等は、自已の利益を計る爲めには眼中何者もないのである、近頃の樣な不況の際は一錢でも安ければ如何に世間の人が助るかわからない、從來平町中央の理髪業者は協定値段で理髪し居りたるも町端れの小理髪業者は幾分なりとも格安に營業し來たものであるが、斯くある事は當然であり如何に世間の者に悅ばれてゐたか解らない、營業設備の完備してゐる中央の者と、町端れの小營業者の料金を一定となす事は始めより無理な注文で、今度の如く協定料金を嚴守する事となれば中央部の營業者は値下げかも知れぬが、町端の營業者は反つて値上げを爲さねばならなくなる、然し協定料金より以上客に要求しては惡いとの事のみならば話も解るが以下の料金で理髪しては惡いは肯定し得ない理屈である、然るに組合幹部は定欵を楯に料金を實行せぬ者は營業を停止せしめんと劃策する如きは社會人道上の大問題である。

警察當局は二三人の幹部の意嚮に繰られ彼等の利益を擁護せんが爲め小資本家及一般民衆の要望を無視するが如き事は絶對にせぬ、頑迷な少數幹部よ速に蒙を啓いて時代に順應した施設をなす可きであらう。

磐城名物チヤンガラ念佛
競演會開催
九月十日第一小學校々庭に於て

石城地方の名物として例年盂蘭盆に古來より平町を始め各農村の青年女子に演ぜられた「ヂヤンガラ念佛」は獨特の選練と特種の妙技を發揮し、民衆的な總合藝術として佛の供養と人士の慰安を兼ね逐年旺んなるに鑑み第一回競演會を福島毎日、福島民報の兩社主催となり九月十日（舊十八日）午後五時より平第一小學校々庭に開催する事となつた。當日は各農村より代表的な演技希望組を募り嚴格なる審査をなし優秀なる出演組には優勝旗及現金の賞與を贈る由、これが開催に附き非常な贊成を博し伏見町長を始め平町會議員・平青年團、在平新聞記者等之れが後援をなし、最も意義あらしめんとし、主催者側も準備に忙殺されてゐる。

▲審査委員長　青沼鋒太郎
▲委員　野崎滿藏、江口忠一、諸橋久太郎、井上茂作、萩原義雄、山崎清三、關内正一、馬目雅治、馬目武之助、吉村安次郎、神谷亥三雄、佐々木喜平、新妻盛、永山富廣
▲會計　端山正男、外二名

平町の誇り
國家的な發明品
坂本兼次郎氏の手袋莫大小製機

平町に世界的な發明品莫大小製造界の革新とも雖ふべき手袋莫大小編製機が平町大町坂本メリヤス製造所主坂本兼治郎氏に據以上の能力を發揮し得るもので如何に同機が優秀であるかを裏書してゐる。坂本氏が同機を發明するに要した二ヶ年余に餘りて創造發見せられた。同機が昭和五年八月廿五日特許公報第三三八一號に依りて公報せらるや斯界の同業者は一樣に非常な驚威を感じた、莫大小製造が日本に創始してより四十年今日年額數千萬圓の多額の輸出をなしつゝあるが、この莫大小及軍手を製造する機械は主して東京巢鴨の永田メリヤス製造會社製を爲め小資本家及一般民衆の要望に繰られ彼等の利益を擁護せんが如き事は絶對にせぬ、頑迷な少數幹部よ速に蒙を啓いて時代に順應した施設をなす可きであらう。

苦心たるや並大抵のものでなくメリヤス製造の繁多な劇務の傍寸暇を盗みては寢食を忘れて創生に努力を積み漸く特許申請に到つたもので其間の犧牲たるや發明者より外窺知るものでない同機が生れたるを知るや新川町吉田鐵工所及搔抱小路の武藏鐵工所は其製作方を引受け製作準備に一萬數千圓の機械設備を爲して同編製機械を製作し一般市場に賣出す計劃中なれば近き將來に永田機を壓倒し坂本機が斯界を風靡するであらう。

本氏の手により發明せられた編製機は從來八十組製作を二百組

眞？偽？ 白水河畔の暗雲

正は最後の審判に勝つ

最近石城郡内郷村白水を中心とする附近の炭礦に絡る諸々なる怪事件と稱して在平各種新聞紙上を賑してゐる、やれ盗炭、侵堀、又は業務妨害であるかの如き〇〇〇切斷事件、等々の諸問題は一般平町民には余り關心を持たぬも可成深刻にして暗黑な社會の裏面の暴露を物語つてゐるものゝ如くである、然し眞相よりかけ離れたる風評も傳へらるゝではあるまいか。例へば磐炭の權先堀である〇〇氏の盗堀問題である、同氏が幾十萬噸採堀した處で、夫れ相當の權利金を納めてゐる筈であれば夫れは自由である、そこで新聞紙上に見る盗堀云々、の語は當を得ぬものではあるが、只白水川底の採堀問題は別である、事實氏が採堀せるか否かは專門家の調査に待たねば判明せぬ事で、只徒らに一種の流言を信じて〇〇氏に批判を與へるは早計であらう白水川底は保安區である、されば保安礦區は權利者でも採堀し得るものでない。然もこれを侵したる場合は盗堀でなく侵堀と云ふ可きもので、それも、該地方人の申告あつて始めて監督當局も問題にすべき性質のものである。某紙の傳ふるが如く白水川底に龜裂が生じ陷沒し、爲めに川水が地下に浸込み耕地の用水が奪はれた事が實際とすれば事重大である。農村の損失莫大なばかりでなく下流に磐炭の生命とも云ふ可き綴坑がある、されば近くは藤原、三井坑の二の舞なしと誰が保證し得るか、果して事實とすれば當事者が默認するものであるまい、又長年採堀業に從事する氏が斯る危險を冒して迄も侵堀を敢て爲すとも信ぜられぬ。

ロープ切斷事件に關連し前〇〇〇礦長〇〇氏の休職問題に就き世評喧々囂々流言頻りに飛ぶも、事件支部豫審で審理中なれば此處に記す事に自由を有しないが、世評に傳ふる如く二三幹部間の勢力爭ひより起つたものでなく只單に一坑夫の過失より生じたる事位に留めたい、然し司直の審理は那邊に迄進展するか速斷を許すものでない、世評の如くあれば實に昭和聖代の不祥事と云はねばなるまい。

昨今白水の小天地には流言に次ぐに蜚言、宣傳に對するに聲明批判に批判生じ粉々揣摩臆說が行はれ不穩の空氣が漲つて。何れが眞か、何れが嘘かはいま此處に斷定的な批判を下す可きでないが、時の裁斷は正に組し邪制するものであれば暫く渦中より離れ冷靜に調査の歩を進め時來らば筆硯を新たにし邪惡なる者には忌憚なき筆誅を加ふであらう。

役員、坑夫の積立金 全部を郵便貯金に

小田直營礦の快擧 他では出來ぬ藝當

好間村小田吉次氏直營各炭礦に於ては今般役員、礦夫積立金の外更に緊縮貯金と稱する貯金の奬勵を努めたが、これは同氏の秘藏幹部武藤所長、佐藤會計氏等の發起にかゝるもので、禁酒其他の緊縮費用を以つて貯金をなすものであるが、これを好機として小田氏は全役員、礦夫の從來よりの積立金一萬六千六百八十圓余を全部郵便局に預入する事となした、積立金を郵便貯金になし置く主意は積立金をなしてゐる人々に不安の念を根絶せしめるもので、他炭礦に於て事重大である。農村の損失莫大は積立金何萬圓也と計算が出來なばかりでなく下流に磐炭の生てゐるもイザ奥職とか、死亡等の時其金額が全部は何等かに使用されてゐるので、受取りに手間が取れたり甚だしきは血と汗で貯めた虎の子が滿足に返らなかつたりした例があるのを見て小田氏が兼て自ら預つてゐた金額を郵便貯金となし安心して積立し得る樣になしたのである、然かも從來は七分の利息を附してゐたが、郵便貯金では四分二厘丈けしか利息を附さぬので氏は更らに奬勵の意味で全額に對する一分八厘を呉れることにした由である、これは正に不況時代の炭礦界に於て他礦では一寸と出來ぬ藝當と各方面から驚異的目を以て見られてゐる。

磐越銀行 破産か和議か

和議反對の烽火 先づ湯本町より

磐越銀行は一昨年以來殆んど休業狀態を繼續し乍ら第二回、第三回の株金拂込を敢行して善良なる株主を苦るしめ一部に不正本町では破産申請を强調する外預金者の共同利益のためとして同問題のため相談會を開催する事になり、來る九月七日午後一時より湯本公會堂に於て和議反對の預金者會合をなすべく既に湯本町長小泉三代喜氏の名を以つて各預金者に檄を飛ばしてゐるが、この結果は磐越銀行の例の巧みなる策戰其の功を奏して和議の結果を得るか、又湯本町より揚げられたる烽火延蔓して破産の浮目を見るか、一般より注視の的となつてゐるのみならず各預金者から重大なる問題として深い考慮を以つて迎へられてゐる。

の借があつたりして可なり世間から騷がれてゐるので委任狀も存外集らぬ模樣である、一方湯本町では破産申請を强調する外預金者の共同利益のためとして同問題のため相談會を開催する事になり、來る九月七日午後一時より湯本公會堂に於て和議反對の預金者會合をなすべく既に湯本町長小泉三代喜氏の名を以つて各預金者に檄を飛ばしてゐるが、この結果は磐越銀行の例の巧みなる策戰其の功を奏して和議の結果を得るか、又湯本町より揚げられたる烽火延蔓して破産の浮目を見るか、一般より注視の的となつてゐるのみならず各預金者から重大なる問題として深い考慮を以つて迎へられてゐる。

決算報告に現れた 湯本、磐城兩無盡の 營業成績と批判す

（一）

業峰生

昭和三年五月平町に於ける財團磐城銀行突如休業を宣するや、最も堅實な營業方針の基に町民より絶大なる信用を擔ひ居たる平銀行さへも一時休業の止むなきに立至り、次ぐに福島貯蓄、百七兩銀行の閉門、磐越銀行の拂出不能、四倉銀行の立横生、等々不祥事件續出し、磐城の金融界は一時全く暗雲に覆れ流通は杜絶し、暗夜迷路を行く狀態、石城の小天地に財界混亂時代を型造たのであつた。斯る危機に際會しながら何等動搖する事なく石城金融界に多大の貢献をなしたる磐城無盡商會及湯本信用無盡株式會社の二社があつた、兩社共創立は大正十一、二年頃にして既に拾ヶ年の日月を經て痛烈身心を打碎く殺人的不況の今日いま猶金融界に特種の性能を發揮しつゝあればその功は嘉みせねばならない。然れども何人何業に依らず、其創業當時に有りては最も眞劍に最善の努力を傾注するものなれども、畧其事業ならんとするや心慢り眞劍味を欠き、私利私慾に走り勝ちになるは世間の通例である、故に完成に近くと共に緊褌一番愼重に事を運ぶべきである。過去に幾程の功積在るにもせよ、現在の爲す處に是認し能はざる事有りとすれば、一般社會の利害の爲め斷々乎として之を糺彈せねばならない。今兩社本年度上半期の決算報告の一部を掲げ兩社の內容に就き批判を加え是々非々を論じ、兩社の反省を求めんとするものである。

本年上半期兩社の決算報告の主要を摘載すれば

磐城無盡商會

無盡契約高　二、六六五、三八〇・〇〇

未收無盡株金　九六、八八七・四〇

解約未收無盡株金　六六、三八三・三〇

未拂無盡給付金　五九、〇三二・〇〇

銀行預金　一〇、一四二・四五

振替貯金　二、四一八・六二

金銀勘定　一、一九九・六二

□

湯本信用無盡株式會社

契約高　二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇（約）

（本額報告なし問合したるもの）

未收　三六、八四八・五〇

給付金　二、九七二・二二

銀行預金　二、四〇三・三九

振替貯金　八〇・七四

現金　一、三〇八・八七

（以下次號）

前記決算報告面に現れたる各項に付批判を加へ、兩社營業成績の內容に論及する事とする。

（以下次號）

▲▲秋が來た▼▼

□

炎天に老乞食が轢殺された、好い横死だナーと瞬間思つた

□

六錢の白米を買つて迄も生に執着するのが人間。

□

生は死よりつらい。

□

百の理想論より晩の飯をどうして下さる、今腹が空なのだ

□

働らかざるものは食ふべからずと云ふが、働く仕事がない

□

食はずに死ねか。

□

不景氣が去らずに秋が來た。

□

今年の虫の聲は腹に泌みる。

入社の辭

一管の筆を携えて磐城調査新報に入社す、何を爲さんとてか、我に才なし智なし、されど溷濁せる世想、黎明なき社會、道義心地に塗れたる現代を視る時聊か公憤を感ず。燃ゆる公憤を一管の筆に托して世想の報導、社會の解剖然して現代層に顯正破邪の筆誅を加ん事豈徒爾ならざるものと信ず敢て多く言ふを要せず、以後豚兒を激勵鞭韃じ、爲さんとする處を爲さしめられよ。

以つて入社の辭とす。

高木忠三郎

電話番號變更

四九八番（元八四二番）

局の都合にて右の通り變更いたしました。

御含み置き下さい。

本社

實話

孝子吉公

文士が心血を注で作り上げた小説より奇しき事實美談、秋の夜幼子に聞かせる好適な教訓話としてこの一文を記す。

雪深い秋田縣の片田舎雄勝郡田子内銀山で給仕や後山をしてゐた吉公は三十五年の苦闘が報ひられて今は押しも押されもせぬ炭礦王となつて三百萬と稱せられる財産を得家中も平和に事業も順調に、何ひとつ不自由とてはない身となつたが、たゞ一つ父親政太郎にこの成功を一目見せなかつたことが殘念であつた丁度本年五十歳になつた記念に壯嚴な墓地を先祖と子孫のために平町良善寺に築づいたので早速父母の遺骨を分葬したいと日夜あせつてゐたが、多用の身でつい延びのびになり、やつと寸暇を得て懐かしい秋田に向つたのは燒き付く樣な暑さの八月三日であつた。

日頃なり振りをかまわぬ同氏は麻の結襟に麥藁のカン〳〵帽で驛に降り立つと、すぐ自動車を飛ばして思ひ出深ひ草や木に迎ひ送られて田子内銀山さしてヒタ走りに走つて行つた、壞れた土橋も、破れた路傍の指導標さては眞黑な森、みんな懐かしい風物であつた。あと三里で目的地といふ所に淺野系の吉野鑛山がある、丁度其の吉野鑛山の直ぐ附近に來た時突然一人の青年が「ヤアー吉且那ぢやありませんか」と飛び出して來た・驚いて車を止めさして見ると意外、三十數年前田子内銀山で共に地底で働いた佐々木長太郎の子供で今は吉野鑛山の庶務課に務めてゐる千代太郎君であつた、君はその後一度磐城に來て同氏に世話になつた事があるのでよく面識があつた、二人は十年振りの奇遇を喜ぶと同時に父長太郎が日毎あなたのことをいひ暮らしてゐるから是非といはれ情にあつい同氏はその鑛山に寄ることにした、千代太郎君は父長太郎君と相談の結果同礦所長の羽生實氏に一切を話して見苦るしい長屋ぢや失禮だから合宿を一寸貸してくれとたのんで夕飯の仕度にかゝつた、勿論氏は「何此處で結構」とヤブレ疊の長屋で夜になるのも知らずに昔話に花を咲かしたのであつた。丁度其時所長の所から磐城の方が來た相だが是非御目にかゝりたいと云つて來た、何は知らず「君等も世話になつてゐる方だからん行かふ」と其所長の社宅に行つて見るとハット流石の氏も驚いた、それもその筈氏の父親が死亡した時一方ならぬ世話になつた、今年七十六才の白髪の老人羽生貢氏こそは所長の父親であつた、意外な會見に啞然としたのも無理がない。

十三年前にもどるが、田町でもう赤貧洗ふが如く子内の町でなつた小田政太郎は一寸の病が元でコロリと死んだ、サーたいした身よりもなく、子供の吉公は聞けば磐城にゐる相だが來るか來ぬかも知れぬ事と近所知人が米五升だ、大根だと持さあつまつて遠縁に當る羽生貢が金五圓を出して葬儀を出す處に電報の知らせに駈けつけた吉公は其當時は未だ苦るしい工面の百圓を抱へて飛び込んだのであつた勿論葬儀はつゝましく行れたのである。

其時の貢老であつた、話がはづんで夜の更るのも知らず、その内貢老は他人を退けキット座り直して「時に吉公!!今日こそはお前にお前の先祖の一卷郎ち系圖の一ト卷を見せる」と突然の話、目の前には古色錆びたる一軸を取り出して語る物語りは。

羽生家と小田家とは實は本家新宅の間柄で、吉公の父親政太郎は人よしの呑助なために家運もかたむき、爲めに祖先の名を惜んで秘してゐたが最近吉公が磐城に大成功をしたとの事一度會ひたかつた。

祖先は遠く藤原時代より傳り近くは常州土浦で二萬四千石の城主である、この一卷はわしなき趾はそちにやるから、先祖のため、社會のため奉公は忘るな」と云ふのであつた驚ろいたの驚ろかないの同氏は夢見る心地、幸ひ一卷のうつしを貰つて早朝其處を出發し田子内銀山に出て父母の遺骨をたづさへて歸途に就いたは次の日であつた。孝子功なりて父の遺骨の改葬、思はぬ人との對面、そして夢にも知らぬ遠い祖先の系圖が知れた、糸を繰つて不思議な物語ではないか。

歸鄉して平、良善寺に盛大な改葬の儀式を擧げたはそれから間もないことである。

昔の吉公こそは、磐城の炭礦王小田吉次氏である。

佑賢學舍に農産校開始

本郡有數な教育者である大和田豊吉氏は磐城佑賢學舍を創立以來孜々拾數年間石城教育界に多大の貢献をなし來りしが、來春同舍内に農産學校を新設し、日頃崇拜する二宮尊德翁の實學主義に據る實業教育を開始する由徒らな教育熱に冒されて實力なき教育浮遊者洪水の昨今地方人士には誠によき福音と言はん。

苦味澁味

(六)　麥人

□昭和三年來新聞を出す度び書き續けて來たが近頃大和田兄の磐實紙に苦味辛味の見出しで毎號眞んとに辛い苦い處を連載してゐるので僕は何とか變へようと思つたが永年使ひ慣れた見出しと別れるのが一寸惜しい樣な氣がするのでそのまゝ用ひる事にする。

□平上水道の擴張工事費が二十六萬四千五百五十圓に委員會で削られたのは當局として面目丸潰れの感がある、豫算を大にして小額で終つた工事がない、切つめた豫算でなす工事には不正の豫地が少ないこう考へると委員會の英斷は町民として感謝すべきであらう□

豫算が多ければ補助が多いと素人だましの事をホザイてゐる町議と町當局の一部がある補助は決算補助で實際費やした工事費に對して下附されるのだから心配無用な筈、それを口惜がつてゐるとは……愛町の士しつかりしろ町民は盲らばかりはゐないよ。

□最近安川某が何とか公論といふいかめしい新聞を出して平上水道工事豫算切りつめの功勞者とも見るべき野崎と其一黨を町民に相濟むまへと惡口減でどうかしたのらしい。

□この安川某ではあるまへが民政同志會とかで海水浴をやると多數から會費を集め、同志會の名で新藤屋本店へ折詰四十個を注文して四倉で盛會だまではよかつたが、其後同店から同志會の人々に代金頂戴に行くと誰も知らんと來たのでついに同店から何やらの告訴されたとは同名異人だつたら迷惑な話だ。

□平上水道擴張工事豫算町會で問題になつた助役の一札問題既定補助を見ない時は町有土地の全部を叩き賣り小學校の基本金迄曝らけ出して見せまとと内務省に一札入れた――はかなり思ひ切つた仕事だ、これでは町會議員がいらん、決議もまづ權威かない、議員諸君の猛烈な反對を卷き起して結局、私が越權行爲をしたと平蜘蛛の樣にあやまらせられたのは醜態だ、しかし最後まで頑張つた事と頭を下げたつて損はないと云つた調子は天下一品。

□口の惡いのが都々逸をつくつて「私が惡るけりや謝まりましよと　あとで舌出す口上手」何だかあてられた樣な氣がする。

□磐越銀行では湯本町の破産申請に對抗するため債權者（預金者）の委任狀を集め債權者總會を開いて和議法にかけたいと連日苦心してゐるとか、しかしあの銀行を斯くあらしめた原因が大衆に解り切つてゐるので其結果を危ぶまれてゐる。

□いづれにせよ預金者は同行の債權卽ち貸付金の内容を究明する必要がらう、隨分面白くない裏面があるらしい。

□本紙は昨年末磐城之民政と改題したが、多數先輩の注意で元の調査新報と再改題したから何卒御承知願たい、尙新進の高木君が奮闘してくれるので引續き定期に出すつもりだ

暑中御見舞

白井一郎　小名濱町

加藤丈夫　内郷村

代議士　比佐昌平
代議士　氏家清

石城銀行組合

小田炭礦
萩原鑛業部

東部電力株式會社
平營業所

古河鑛業株式會社
好間鑛業所

縣會議員　野崎滿藏

辯護士　漆畑元吉

平町を一眸に收め
一日の行樂を愉快に過せる
娯樂場
城山聚樂園
飯田近治
◆朝八時より藥湯あり

鈴木寶雄
平町北目町一二

高階一郎
平町北目町九一
電話七一八番

菊地傳一郎
石城郡內郷村白水

高久村
箱崎牛右衛門

杉山炭礦
杉山今朝吉

平町々會議員
佐藤岩次郎

丸一醬油釀造業
鈴木祐崟（スケタカ）
高久村

諸機械其他附屬品
ラジオ一式
日東商會
平町白銀町

平・好間定期
三井自動車部
電話一五六番

平町
卜印賣場
平魚市場內
電話五二八番

平町六丁目
矢吹石炭店
◆變更電話……四七八番

平六丁目
鋸製造販賣
竹田儀平

平町紺屋町
織田材木商店
電話四六〇番

海陸物產
委托販賣
安孫子才三郎
平六丁目
電話五五一番

平町四丁目
關內藥局
電話四〇番

電話番號が變りました
平町三丁目
各種帽子
遠藤帽子店
◆變更電話……四八八番
前八三四番

平製氷株式會社

好間軌道自動車部

山崎合名會社
電話二七番

湯本信用無盡株式會社
湯本町

平町新川町
木村病院
電話一六四番

平町田町
安齋外科醫院
電話四七五番

片倉磐城製絲株式會社

平町田町
市原醫院
電話一一四番

磐城建物株式會社

平町田町
高久病院
電話五一三番

豐間村
遠藤伊平次

西洋料理組合

◎電話番號が變りました
平大工町
多田井質店
◆電話變更……五九一番
前八六九番

清楚な
明るい
洋酒
食事
奉仕
僕等の
サロン
サロン
サロン
サロン
サロン
サロン
電話三五二番

サロンの公休日は毎月「第三火曜日」に變更致しました

最新式機械
日除製造販賣
除日

各種日除
テント
シーテント
カーテント
マント
室內裝飾
ガイトウ
モジリ

日除商會
平町紺屋町四五

◆御一報次第見本持參致します

最高の品質！
最低の値段！
靴
各官衙、學校、會社、銀行、炭礦の御用命は弊店へ
平町才槌小路
仙臺屋靴店
店主廣部勘太郎

スマートな自動車の
貸切り御用命は
昭和タクシーへ
平驛前　電話二四二番
澤正路